

区分・種別	重要文化財(建造物)		
名称	じょうどじほんどう 浄土寺本堂 1棟 附 厨子 1基		
所在地	松山市鷹子町		
所有者	浄土寺	管理団体	
指定年月日	昭和28年3月31日		
解説	<p>真言宗<sup>ぶざん</sup>豊山派の浄土寺は三蔵院ともいわれ、四国八十八か所49番札所である。縁起によれば孝謙天皇の勅願所となり、源頼朝の再興によって寺内8町四方に及んだが、応永23（1416）年兵火にかかって焼失したと伝えられている。文明14（1482）年に伊予守護河野通宣<sup>みちのぶ</sup>が伽藍再建工事を起こし、2年の歳月を費して現存の本堂が落成した。</p> <p>この堂は桁行5間、梁間5間、一重、寄棟造、一軒、本瓦葺である。柱はすべて円柱で、前2間は外陣<sup>げじん</sup>となり<sup>しとみど</sup>蔀戸を隔てて内陣となっている。組物は、平三ツ斗<sup>ひらみつど</sup>、中備<sup>けんとづか</sup>に間斗束が使われており、全体の建築様式は、和様と禅宗様を折衷した室町時代の建造物である。</p> <p>内陣正面にある一間厨子は、入母屋造、妻入り、板葺で、優美繊細、唐様の秀作である。この厨子に遍路の書いた落書きがあり、その最古のものは大永5（1525）年で、これによって製作年代を推定することができる。</p>		

